

「11 月 3 日唐丹産わかめ販売を行いました」

群馬県社会福祉法人 新生会「新生まつり」

新生会まつりのボランティアをして

渋川市立西小学校 2 年

柳沢 優心

ぼくは、新生会まつりのボランティアをして、今年で 4 回目になります。はじめは、5 さいでした。岩手けんのとうにのわかめをうりました。わかめのみせしるをおうで、のんでもらって「おいしかったら買ってください」と言っておうりました。ふたりのいもうとは、うたから手つたています。大きな地しんとつなみで、町がのみこまれていくのを「ちんごんのうた」の DVD で見ました。それでぼくと、いもうとは、ぼんごを持って「しうのためにぼんごをおねがいします」と言って、ぼんごもしてもらいました。去年と今年、北かろいざわのやさいもうっているのでたいへんです。おつりをまちがえないうちに、しかり言ひさんしてわたしてします。ぼくをとうにのわかめのみせしるをのんでします。なぜかというとおいしいからです。

ボランティアをするたのしみのひとつです。またボランティアのかつじうをして、とうにおうえんしていきたいです。



しんせいかいのまつりのボランティアをして

パソジューほいくえんねんちやう

わたさきさわまのかい

わたしは、しんせいかいまつりでいわてけんのか
わかめをうるボランティアをしました。こしてわかめ
めになります。しぎきんまごをもらってしぎきんもして
もらいました。かぞくみんなでかんぱりしました。
かんぱりたのでかえりにソフトクリームをかって
もらいました。きたらねんもかんぱります。



「復興支援活動をして」

◆新島学園高等学校1年 須原 遥

私は今まで、震災で被害を受けた地域の復興に直接関わるようなボランティアをしたことがありませんでした。いつかはしようと心では思っていたものの、実際に行動出来ずにいました。なので、今回このような形で被災地の復興に少しでも貢献できてとても嬉しかったです。

ワカメ販売やお味噌汁を無料配布する今回のボランティアでは、最初は恥ずかしさもあり、あまり声を出すことが出来なかったのですが、少しずつ慣れることができ、最後は売り切ることができてとても嬉しかったです。

売りきった時の達成感は大きくて、自分にとって貴重な経験になりました。ボランティアをするだけでなく、沢山の人と関わることもできて、色々なお話を聞くことが出来ました。この経験を生かして、これからも諦めずに何かを続けていこうと思いました。

貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

◆新島学園高等学校1年 手島 萌々子

今回ボランティアに参加して、初めて唐丹希望基金の存在を知りました。役員の方々が情熱を持って活動されている姿を見て、生き方について考えさせられました。私も世の中の役に立てる人間になって、社会に貢献したいです。私にとって、とても良い経験になったと思います。ありがとうございました。



群馬エスペラント会の秋の遠足

堀 泰雄（群馬県前橋市）

群馬エスペラント会の秋の遠足は、旧榛名町（現在は高崎市に合併）にある社会福祉法人新生会の文化祭にしました。岩手県唐丹希望基金の会長高館千枝子さんが盛岡から来て、ここで唐丹のワカメを売るので、その支援も兼ねてのことです。唐丹希望基金と新生会の結びつきは、これも「唐丹希望基金を巡る不思議」の一つですが、今では、新生会の職員、柳沢さんが、唐丹希望基金の仕事（パンフの印刷、DVDの製作など）を、新生会の仕事の一部としてやってくれています。そのような経過もあるので、今回の参加を決めました。

秋晴れのなか、庭で開かれたバザーで、ワカメを完売し、午後には、新生会の中を案内してもらいました。ここには、全部で10棟の建物に、様々な種類の老人ホームがあり、それに加えて管理棟や診療所もあるという、想像を超えるような大規模な施設でした。理事長の原慶子さんが、父親から仕事を引き継ぎ、キリスト教の精神に則って経営しています。館内のどこにも素晴らしい絵や彫刻が飾られ、庭もきれいに整備されています。一番高い建物の屋上からは、高崎市内や榛名山が、紅葉の中に浮かび上がっていました。

参加者は、それぞれが高齢のこともあり、「そのうち、ここに入るのも良いな」という様な気持ちになりました。

今回の参加者は、東京から右原君江さん、深谷から吉田信子さん、渋川から山本和子さん、前橋から星野伸子さん、堀泰雄、玉江でした。案内してくれた少年は柳沢さんの息子です。



11月10日(土)、今年もあらかわ福祉まつりに参加しました。東京都荒川区が岩手県釜石市と震災以前から姉妹都市として交流、震災以降も復興支援や交流を活発に行っている、そのような縁もあり、毎年、まつりに参加させていただき、チラシにも「復興支援 岩手県釜石市唐丹小・中学校の子どもたちへ募金活動」と載り、エレベーター前のスペースを定番で使わせてもらっています。



展示で、唐丹の子どもたちの成長の様子を伝え、支援のための募金するのが目的で、今年は中学校の卒業式で卒業生一人一人が漢字一字で決意を誓った写真をメインに、小・中合同の運動会、文化祭等の写真を壁に掲示。写真は高館さんが送っていただきました。テーブルには堀さんが拾い集めた引き取り手のない震災の遺品や写真集を展示しました。中澤さん、菊地さん、右原さん、私の四人で午前9時から準備作業、10時に開場です。

来場者はバザーが目当ての人がほとんどで、展示に目を留める人は多くはありません。でも、東北に何かしら縁のある人たちがよく立ち寄って話を聞いてくれました。岩手出身の人、岩手で仕事をしていた人、東北で学生時代を過ごした人、東北を旅したことのある人、宮沢賢治が好きな人等々。

それから、いつもながら、津波の遺品はとても人を引きつけます。特に無邪気な子どもたちを。ひとつ心に残ったエピソードを紹介します。3歳くらいの男の子とその父親。エレベーターから降りバザー会場へ向かう途中、私たちのブースの前を通り過ぎたのですが、男の子が遺品のおもちゃに目を留め、父親の手を引きこちらに来ようとなりました。父親は目をそらし、子どもを引っ張るようにして連れて行きました。その後、また私たちの展示の前を通りすぎた時、男の子がどうしても遺品のおもちゃが触りたくて父親を引っ張り、父親もそれに負けてやって来ました。砂がついたおもちゃに触らせたくなかったかもしれませんが、子どもはそんなことは気にせず、ミニカーで遊び、次々と曲がったお玉や壊れた魚釣りのリール等を手に取りました。私は男の子とそれらの品についていろいろ話しました。男の子は津波を知っていたのです。父親も少しずつ話に加わり始め、これを使っている人がいたんだよね、と自分でもリールを手にしていました。しばらくして、ふたりは去ってしまいました。つい「1円でもいいから募金する気持ちがほしかった…」と私は菊地さんと右原さんにぼやいてしまいました。

まつりも終わりに近づいた頃、私が少しの間、席をはずし戻ってくると、菊地さんと右原さんから、あの親子が戻って来て、募金をしていったと聞きました。父親が子どもの手にお金を持たせ、その坊やが募金箱に募金を入れていった、と。私の心は一変に晴れました。父親もそういう気持ちになってくれたのだと。金額ではありません。そういう気持ちになってくれたことがとても嬉しかった。

そうこうしていると、荒川社会福祉協議会の元事務局長、藤田満幸さんがブースに来ていただきました。私たち、唐丹希望基金と福祉まつりを繋いでくださった方です。募金箱に募金をしてくださっただけでなく、「2020年まで私も協力します」と言い、封筒に入れた募金を用意してきていただきました。なんと心強い励まし！

このようにして、今年も参加してよかった、との思いで終わることができました。来年に繋がります。

唐丹中学校の文化祭に参加して

赤澤 典子（岩手県盛岡市）

唐丹中学校文化祭の30年度のテーマは「十人十色」ということでした。

生徒さんの元気と感謝を伝える文化祭にしたいという、一人一人の想いが、私たちにも良く伝わってきました。大石虎舞を演ずる生徒さんの姿をとうして、伝統を学び、伝えることは、幸せの種をまくことに繋がることを想いました。

一人一人が頑張っている姿を頼もしく思いました。

学校は新しくなりなり、体育館の天井には、海の思い、震災を乗り越えて逞しく生きようとする想いが込められているように思われました。

その体育の片隅で、表千家岩手支部や唐丹基金スタッフのご好意によるお茶会が開催されました。茶会には、生徒や先生方、学童の方、ご父兄や地域の方々も参加していただき、お菓子もお茶もおいしいと喜んで頂き、和気あいあいという感じで会は進められました。お手伝い頂きました唐丹地域の方々や唐丹中学校の卒業生のボランティアの皆様のご協力に心から感謝いたします。

継続は力なりと言われるとおり、第1回目はぎこちなかった茶会も回を重ねるうちに、会話が交わされるなど和やかな会になってきたことを嬉しく思います。子どもたちの心に、お茶の楽しさが少しでも伝わったのではないかと思います。

お互い元気であつたら、また逢いましょうという事で茶会は閉じられました。唐丹にお伺いするたびに、頑張っておられるその姿に、支援させて頂くというより、元気を頂いてくるような思いになります。

まだまだ、ご苦勞があるかと思いますが、力強く歩まれます事をお祈り申し上げます。



[東日本大震災 2011・3・11] を歌い継ぐ

♪♪♪♪...「鎮魂の歌」を歌おう...♪♪♪♪

作詞 千葉 隆男 作曲 太田代 政男

—参加登録募集(2020年まで)—

登録 Mail-Address : tchieko@cocoa.ocn.ne.jp

登録 50,000 人達成に向かって

[鎮魂の歌登録方法] : <http://eec-2020.com/company.html>

【2018 年度 登録者一覧】

参加者 50,000 人目標!

参加者 21,015 名
毎月末に更新予定
(2018・11・30 現在)

11 月 22 日 (木) メリーハーツエル節子 (USA・バッファロー)

去る 11 月 13 日の火曜日にナイアガラ大学の日本語教室で大正琴で日本の歌を紹介しました。鎮魂の歌を紹介して、CD のコンサート曲とともに演奏いたしました。登録いたします。

参加したクラスの学生と一緒に歌ってもらいました。教師を入れて 15 人でした。

11 月 20 日 (火) 嶋沢 純子 (京都アンサンブルコスモス代表)

12 月 8 日の歌声に向けアンサンブルコスモス 13 名で、声を合わせて”鎮魂の歌”大合唱しました。

11 月 17 日 (土) 高館 千枝子 (唐丹希望基金代表)

11 月 9 日~16 日 アメリカ・ミネソタ州のキャロル サックさんの出身地の教会 3ヶ所、日本宣教師会を訪問し、東日本大震災スライドとプレヤーショールの報告の為、渡米しました。

ハソウと共に「鎮魂の歌」、唐丹の子供たちへ贈った歌「I, YOU, WE」を交えた講演を行いました。

「鎮魂の歌」4 会場合わせて 107 名を登録します。

- ・11 月 11 日 (日) 聖ヒェリッパ・ルーテル教会 参加者 30 名。
- ・11 月 13 日 (火) ノルマンデル・ルーテル教会 参加者 15 名。
- ・11 月 14 日 (水) 日本駐在宣教師会 参加者 12 名。

聖ステイブン・ルーテル教会 参加者 50 名